

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2025年 3月 10日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	14	7	教室を構造化することで活動場所を明確にしコンパクトな空間を効果的に使用している	保護者が参加している際の大人側の動きと配置を整理していく
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	17	4	活動内容により、フリー職員をプラスに配置するなど柔軟に対応する	プログラムにより、必要な職員配置の増員ができるような計画性をさらに高めていく
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	19	2	コンパクトな空間を強みにできるように活動場所を分け、短い距離を自発的に確実な移動できるようにしている	さらに子どもの実態と変化に環境設定を合わせて進化させながら、適切な配慮を行う
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	20	1	プログラムに運動遊びもバランス良く取り入れられるようにホールを2分割して使用している	移動距離が短く、指示通りに確実に移動できる経験ができることなど、狭い空間をメリットにできる空間作りを行う
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	17	4	クラスの子どもの状態に合わせて個室や刺激を遮断するエリアを設けている	状況に応じた対応ができるような空き部屋に限りはあるが、部屋の設定やクラス間調整を工夫していく
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	19	2	クラスでのミーティングで丁寧に話し合い、主任、園長もアドバイスをを行っている	設定した目標を子どもの成長・変化に合わせて適宜変更していけるようにする
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	21	0	保護者アンケートを必ず実施し、業務改善に向けた話し合いを行い、保護者に検討結果を文書で報告している	アンケートとともに日頃から保護者の意見に対して、スピード感をもって改善すること、あるいは説明を丁寧に行う
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	20	1	職員会議が定例で行われ、課題、改善点を職員間で検討している	さらに積極的に業務改善に向けた意見を出しながら、改善すべき点はスピード感を持って取り組む
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	21	0	各評価項目を職員間で振り返りを行い、組織全体の課題、強みを把握するように取り組んでいる	職員が積極的に意見を出したり、自ら改善に向けた取り組みを行えるような環境作りを行う
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	20	1	法人研修、所全体研修の他に部署単位での研修を年間で計画し定期的に実施している	経験別に組まれた研修プログラムを作成できるとよりニーズに合わせた
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	20	1	保護者に説明し、お知らせメールに支援プログラム添付した	毎年わかりやすく保護者の皆様に周知していく
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか。	21	0	発達検査の結果も踏まえインフォーマルな評価、保護者にニーズ、職員のニーズを合わせて、適切な支援計画を作成している	
	13	個別支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	20	0	クラスでのミーティングで個々の状態を丁寧に話し合い、主任、園長もアドバイスをを行っている	将来的な姿もさらにイメージした上で、幼児期の支援計画を作成すようにしていく
	14	個別支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	19	2	目標に対しての振り返りの記録用紙や日々のミーティングで対応方法の統一化を確認している	さらに子どもの実態に合わせて、再構造化の検討をタイムリーに行えるようになる
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	17	4	発達検査の結果も踏まえ、生活動作を課題分析した評価適切な支援計画を作成している	課題分析などの手法を用いて、定期的なアセスメントを行い、必要な支援方法の見直しに役立てていく
	16	個別支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	21	0	子どもの全体像を把握し、ガイドラインに沿った視点でバランスの取れた支援を展開するように努めている 目標に対して、具体的な支援内容が明確になる表現の支援計画を作成している	地域での生活、所属集団での支援に役立つという視点からのプログラム作りと保護者が特性に合わせた対応を学びやすい療育活動を大事にしている
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	18	3	クラスでのミーティングで丁寧に話し合いクラス間で行っている様々なプログラム	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	19	2	年間を見通した活動を他クラスとも共有しながら組みたて、偏り、固定化しないよう実施している	活動のバリエーションを増やすことと活動の意味を丁寧に保護者に説明していくこと
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画を作成し、支援が行われているか。	20	1	子どもの分散化、職員の動きの構造化を図りながら個別活動での支援を行える時間を増やしている	プログラム計画の中に個別活動をさらに増やしていくとともに集団活動の中で個別化の視点を取り入れた活動作り行う
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	17	4	前日と当日の朝に職員間で打ち合わせを行い、各職員の役割を確認し、職員の動きも構造化している	再構造化を含めた適切な評価に基づいた効果的な準備ができるチーム作りをすすめる
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	19	2	振り返りのミーティングで次回の改善点を確認し、準備に活かすようにしている	振り返りのポイントを押さえた効率的・効果的なミーティングを行うチーム作りをすすめる
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	20	1	支援目標に対して、対応と結果が端的に記入できるような記録フォームも利用している	さらに記録を検証・改善につなげていくような記録と振り返り方法を研究していく
	23	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	21	0	支援に関わる複数の職員で見直しの必要性を検討している	こどもの成長・変化に合わせて適宜支援内容の見直しを行うことを意識していく
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	21	0	支援に直接関わるクラスの担任職員が参画するように調整している	

関係機関や保護者との連携	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	20	1	地域の小学校教員向けに「公開療育・公開講座」企画し、療育活動を理解してもらい連携を図る機会としている	今後も「開かれた療育センター」であるとともに、関係機関の役割を理解しながら、適宜連携した支援体制作りを意識する
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	20	1	併行通園先に職員が訪問したり、地域の機関からの見学を積極的に受け入れている。担当者間での支援内容についてのやりとりも電話対応も含めてフレシブルに対応している	今後も関係機関と調整しながら、実際の・効果的な連携方法で相互理解を深めていく
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	21	0	①教員の療育センター見学②通園療育報告書③職員の学校訪問（入学後）を行い引継ぎを充実させている	
	28	(28～30は、センターのみ回答)	20	1	児童発達支援事業所職員向けに「地域講座」を開催し、療育活動の内容の講義、指導室の見学を行い、連携を図っている	関係機関のニーズを丁寧に確認しながら、コ力的な支援方法を検討していく
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	18	3	近隣の治自体の療育機関に積極的に研修見学に出向き、最新の療育システムを学ぶようにしている	さらに療育センター間、関係機関間の支援の実際を学びながら、療育の土台の醸成と支援の質の向上を図る
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	12	9		日程調整等の難しさがあるが、地域の関係者との会議に積極的に参加できるようにする
	31	(31は、事業所のみ回答)	－	－		
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
保護者への説明等	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6	15	職員が所属園に訪問し、集団生活の様子を観察し、子ども集団のなかでの適切な過ごし方について保護者にアドバイスしている	コロナ渦以降、地域の保育所、幼稚園との交流の機会が減ってしまっている。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	21	0	単独通園クラスにおいても、親子登園日を企画したり、家庭での困り感を共有する機会を作っている	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	21	0	保護者学習会と親子登園日を年間計画し、子どもの特性を理解していくためのプログラム作りをすすめている	療育経験や発達段階に応じたきめ細かいテーマ設定を検討して計画・実施していく
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	20	1	利用者負担について別紙で具体例を示しながら説明を行っている	運営規定、支援プログラムの内容をわかりやすく重要事項説明会で案内する
	36	個別支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	21	0	保護者の要望を聞き取る用紙を用意し、全利用者から書面で意向を確認している	
	37	「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ているか。	21	0	必ず面談を行い、支援内容について具体的な説明を行った上で同意のサインをいただいている	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	21	0	保護者からの相談があった場合には、電話での対応を含めて、タイムリーに助言を行える方法で支援している	さらに困り感に応じた具体的なアドバイスが適宜できるように努めていく
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	19	2	父母の会活動の担当者を配置し、保護者同士の交流会等を共に企画、運営するなど保護者会活動が活発化するように支援している	保護者間での交流、情報交換できる場、時間と療育への参加時間のバランスを図りながらニーズへの対応を検討する
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	21	0	相談内容によって、関係職員で協議し速やかに対応している	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	20	1	年間予定表の配布、毎月発行のクラスだよりで行事、活動内容を定期的に周知している	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	21	0	年度当初に個人情報の取り扱いに関する研修を行い、管理体制について全職員で共有している	定期的に基本マニュアルの内容を確認していく
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	21	0	予定表などを手元で確認しやすいように、クラスだよりやお知らせをメールに添付して定期配信している	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9	12	運営協議会に地域の自治会代表の方に参加していただきご意見をいただいている	

非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	19	2	年度当初に緊急時対応に関する研修を行い、全職員で共有する機会を設定している	家族への周知について、説明会に限らずに周知していく機会を作っていく
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	19	2	月1回定期的に訓練を行い、地震、施設火災、近隣住宅火災など、様々な想定をした訓練計画を立て、実施している	訓練がパターン化しないように、各職員が災害時に状況判断し行動できるような訓練にしていく
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	21	0	入園まえにアンケートを実施し、アレルギーも含めて安全に療育活動を行えるように情報を正確に把握している	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	21	0	対象児については、主治医の意見書を提出していただき、指示に基づき安全な対応を行っている	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	21	0	安全計画のもとに年間計画を作成し、研修訓練を行い、安全な療育活動に努めている	安全計画を基に避難訓練等から必要な見直しを行っていく
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	20	1		避難訓練等の実施計画を家族へ周知していく
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	20	1	事故・ヒヤリハット報告書を作成し、所内の主任会議で共有後、各課で共有し、再発防止策について検討・確認している	ミス、事故が起こりやすい事案、状況については定期的に確認していくようにする
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	21	0	子どもへの関わりについて、日頃感じていることを全職員でグループワークを行い、虐待防止について共有する機会を作っている	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載しているか。	21	0	身体拘束適正化委員会において、状況を確認した上で組織的に決定し、個別支援計画書に記載している	検討された内容について、児発管を中心に該当クラス以外の職員も含めて、対応方針を組織的に共有していく